新板
絵入

嬉多天想

五

へ遠13
1329
5止

咲分五人揔

目録

第一　苦しい角兎柳を祝ふ力蓮

　　案堂の祝笑禅次でし葬礼の代と家役

　　法師徒のくるゝ和尚乃祈れ

　　越てるのなるおのゝ恩花で出る祝

第二　鹿撃ちいそしの多い棟作が生活働き
女子の指図でうまく云はむ志い嘆女の多和歌
村中の市制とは付つざる人賞乃金儀
ちとふくまを思とい結女のうとおく

第三　岡の狩い狐色い岩塚乃花鈸鑑昌如去
先代は追数の命中者某乃出世の時は用
来のるる邪乃栄花い絡よい天の責にたちろ
再開く今花之うく武徳の業ふ秋万業ふ

一　嬉しい虎に角鬼柳を祝ふ外が力達
男を親とし仕い岩の家は根とする茅命と偏どしべ江乃
かくに撰ぶる和。毒市の嵐い戸達子屋風を立ても汚うれど。
内ときにいで頃てあれば。後きてゆるいうち人の男。苗ちく門と
あけるく毎けい。苗と寄る古美が家者でも。伝りのぞとろくちう
とぶしい向生不の華族村の伝乃母。毒花めぐ内とてあき
と宵果れまれ内白い伝之日。英の明ぬとにけるく森ときく。
追付を入ひとろふ葬とを仕ります。業内のとろ和めとあります。
和苗れ、あつあつて毒さ仕とぶひ拝ふて海れば家者を当いたまつて
いに仕る。付よ伝ふ女いとらの下仕せるれば家者も同ぶ仕世や
くとふかさと市者、行て山和古美に内くとらへいやとて伝とのを立て

ゆく葬礼はいとせばしとて、行ずるゆへいとひろ
き所に行ずるを、あるいは、なをうとなしつゝ、
よて行てのる小指日宮を起、泥塗絆とあり。儀は四史四家の作り花。
葬礼に花車をもいとゆゝしく、四月の絆ようつくべ。
なをしかざり、蠟燭をもたて、ゑとを行てのるゝ、ゆく先おかごの
破れよりと、元者との世話のなかに、一門をつゝて、ぶ、今の上下殊勝いとはな
ぶ、仕者ゝ、今者の中、の所の葬礼て、傍輩を、出ちがへそうし。
世せ、ゝ、の大海をでゝ、ゝ、ふ者ゝ、ゝ、ゝ、

おうめぎつこ助きやつ〻縄とりけそ。ぶけ行はやいつるいでとけ。ぶ家れ
も手負ひ者をめとくとぶかさんやうに。第に縄付ひうていとてかをしい。
手負い男をもつ者今ぐう。四郎つくまつて。ぶくおのあつて人付はしぶ。
と達やあのくう。遠人はのあつが方へむぐと法とる男の口惜やしぶ。
をうやぐ用心をぐうまぶ。三郎い射まる手負よ縄うけ。あがめしいえ。武家
方へ礼者行の武はてぶ。まくか国人いはを来みて。うしどうとてつしまと。
そ仕さいを方へ駆け来ぐくわつていぶ。ぶ立のまいぬ来ぶ者と行て
正月の松ぶ行ぶうてなる陣ぶとくと青の中に出る龍人は
郎の武者まる方へつしてまう。あの方へさん法せいぶ方の出結いめ。
ものるしいぶ。品くそうすぐいめつしてまるぐと。村中金代しが義
二挺れよ。射まる手負とのをてつしゆんとひうけぶ。和男はるの親
男いそ陣ぶ。元者とおしてぶ。まが側よ来うあひ品と一度親

帰つしぶ。追付狼い帰ぶ。えこの武はい面白方へ行伝
面くぶ中くあのまと行はしぶ。第そいくゆまといみまぶ。兵信ひ来
人と三十日新ぶさんぶくそうれぐ方へとしてぶ。家するひ屋三
ていいぶと。帰行をつしのあへた。まもこ郎もゆ人ぶ出家の侍員の
亡者と。はきめそれぶ来ぶい親ぶまら。ぶ信のこ等
いおくのこぶさあひぐのあ。二人生ひ押こあと。射手負ひしらくひぐ
押入る西と。亡者とのあ生ぶうぐのあ中が。山岳三郎大刀ふくこ人来ぐお。
やよいふ山生まとおてひぐのあ。一発刀と抱りくあて。コリや中岳三郎
こあ。射手丸の縄とときて来ぶ。さるいとは親ぶのあが肝先
とおぐるぐ。刀のこんとしのあうへひやくとあろれぶ。まいするひ祝い
かくて。三郎。命いうくれぬるぐも手負も縄といてひ中方へまとと
まる法ていひくれぶ。三郎い新ふくいとぐ。元ぐと骨折てを。入る

まるとつの法と事の委今申つづくさぐり縄切なごさ敷き事状
と存まとしりくよ山寄下に添々れば山寄状ば山寄屋の寄家と
相ちまり恐敬の義仕る報恩と脱くに脱ぬ紙なされ相まいば今日婦夫
安寄の脱れ。弁に私妻みさご相続して妻相れいあまくよい大まが弥とれ
恵びのて。婦妻れりとる失事ては立のさるされ一所にみさご戸合邑
私のくれぶ。祝相村いまごに義ぶあていさしぬくてお口者れよいあと
ろに事ば。拙者代に仕後代の異御一学が婦ま移くみとる者て。
相よいくや安房がつづさに上てゆ事るされるさば。安い冊相義
の釈あるとるひて。ま縁と以て。あまくに仕生牙の仕生者とうぐひ戸くさ
と。術妻の釈と名妻あひがのて。れ生れるき相んりのもちもきやつ言に
まるいるくしも釈と妻て仕入あひと。安房がくてくきて義一に井と
ト世たま名仕に相方に仕紙るきゆ人。ゆまくきづりさに。ま逸

と弁まが方に入て。れば。ゆるる。塗物のよ。ま。いくるる結ろ
金作に仕ると。ゆの者て関係いと。ゆで。ち村のゆ。ゆ合とれてのとせ。
時妻で。ゆ。八寸の妻余の妻と。人表仕ま。れ。と。
せて。ま。の中。妻び。ま。と。ま。ち。ち切の端の仕仕ま。る。ゆ。ま。ま武。ま。
つ。ま。ま。と。ゆ。弁仕入と。仕。の相ま。ま。と。れ。び。ゆ。ま妻。ま。ち。ま。ま。れ
ち。ま。ち。ま。ゆ。別妻。ま。ち。ま。ゆ。ま。ま。ま。ま。て。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
神。ま。く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
て。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。
ま。
ま。

ちぐつてしろとうせてしまはるべしおげよくと我さえ行もみぐるしてあげてゆく。
主殺あるくどの方をるそとそれゆるしい殺くゆるしてさくさえ出仕ア拵
はのかるれ方へちくまり拵をいろ者の出家ア上る出仕させ
ドさんと出家にも対面して角ひの拵をとゆつくりつもあいたし宿
し。我用と行ちえしけき対まる九の出仕ひ今でそれ手のそれ面家ぐそ行ぐ今。

(三) 麿拵方いえの人へ拵仕作ア立ち儀さ

智仁勇忠い士の守る和也勇に大雪あり出ア切あ〳義あり出ア可なる
和と拵でそれとぐさに死しぶ孤と要んでのぐべきとのり。色別大勇し岩塚
の出家大和国要人ゆいぐ〳国の強勢。法欲の中と切れけんぐいる者
拵者の出家とすひ一生仕方へも出仕ア立延べと出家和のおいする出
銭い出ざす和ア。素肌して鞭ひ和ア義と負ア。がけもたの殿の庭
とるひぐ〳てそいいとげ代表行ぐ〳そとの出家命と立拵切人と使ひ。

我死て行ものてんぐひ出ア家の出味方ア考もの孫ぐ〳いろ如国さ
めるて始た。命と金ア。ろんぐいる君欲のもて死れ拵ア人力とつし
らびひ出ア。ろくびい出代ア出さずんいる人ぐ人命となり。
入湯して病出さとて和ア巳ぐ如房拵行い義ひの場ア別ア。ろくびい行
方とちずぎ手のまして病重命しけ者ア或ゆいるひ高人の妻ア人へ
九合神九の風ア拵ア出ア。法和と行めろ事の拵さとろくびア。大ア拵つ流
ちつ出と合せ。出庫ぐ妻殿の男ア。と対ア九と使ろ上を拵ろ出ア郎の
出勢とつぐ也。我い拵日人とて世拵ア拵ア。男別の妻死と。妻ときろ
日夜拵湯ア人ぐ〳ろ。ア人ぐ〳ぐ出民困。ろくべい注ア拵ア。
下い出ア。老人と文拵て国屋ぐ出ア。人ぐ〳ぐ出ア人ぐ〳ぐ。
出人ア出の出行来とろ〇ア出代ア出ア人ぐ〳ぐ。脇肝と怪〳出ア六十
金引とるやぐ〳ぐ和ア。ろくぐ出とつけ耳とそぐ〳ぐ出ア。ものと行対人行ど。

ひと一年ごろ百姓会とつをしぶとてつくとぞ物のき。越ぶかに入りしが。西いの浦よ
て伝法ぶ(女房と男丸)とつまるぶ。ぶよ。まて伝法の西、
ゑう。あるとこ物とゑるめぶ。そしぶと物ぶ。様材といふ五兵のふ百
ぬのすぶ。をゑるの戸しぶ。物く寄て物ぶと遅留て。色いあてどゑく
西ゆとめぶ。ぶいすのこれとゑむ。ろゑる一月ふ入てぶん切の丸本の物いちゑ
ぶ。家もむすぶどぶ。男きのひの赤のるとこいあせい物ぶど。きちろ
物と。家ふつ人ぶ初長のつきあ。ぶ。ぶ。ぶひゑる月ハ。裏の長れ
ふがきとも物ふ。ゑへきを。長物ふ。物く。蔵ゑる月の
るひ。豹殿那ぶど紙物さ人つど。物ぶと。破物神ふ。ふとぶて物きと色。
物ぶぬまハいろぬゑる方とこ。ハ。ぶ女夫と。五千あまりて物のるニ
人婦いすぶ。物いハるハもゑる。ぶ百れのるたハいやさくも。ぶ人前
伊勢物語とよむ。ぶどさるといふ。ぶ。ぶ。ぶ

そうれいぞうのるき細戸を結びあつてさとはいまゝのそうれいぞうれ
ぶやとそうぞうの故ぞ安房様行の縁しをけきびはびかより様行でいなかつ要人
こゝぬぎやいつよおどうきぞわ未とうもて表くあんぬぎひよ新どう人合せてそこい
といてこんが法ぞうの神とわしぬぞ要人洞とおのぐひおぐぐうあいは法要水
ぞ法ぞ要れいつぐあくゝ法ゝせのかとうれいぞ様行ぞそぞ鉱の法新のれまつて
あのぐこの法要のこまづひこれぞおんようれてひとう切接ぞ法要かけ付
ゆうあひぐぐれあんぬぞれとつ法ぞうて三のこ法なゝゝうは」あてぞ人要よ
おどいこれは要れとぞまくいおんぐぐいれとけうぞひ要、要れおとと要れ
ゝいあの元屋ゆあるこんまでよのある元とうとうこれぞ耕行の働こいゆは要
れゝあひいなぐ出てきてくれんしすとぞまやも元屋多の世話すてお
んぐぐれけうこんて人ゝ家ゝて面屋とこのぐぞうくゝあの苗れうんべどもふ
牛の角のうとゝとゝて要求お屋屋の神様とれよるひぞぐうみ寄する

そうゝうのう世話よゝゝ家毒とて出魅うてう田面ゝ出れふうを遊てうう
うの僕とうあのとぞ法とたけうれぞぞうれ田ゝよのうそうてうう法
もまく出要れの出ゝ示とうれぞ要ゝうぞれ入て乃ぐぐ示れ対面
して、そうこのうき新要の出物法つきれものゝ法地要人洞とぐゆ法ゝれ
要れの出物来とうれとゆうれ甘ゝ悩ゝ新ゝ私ゝゝの新ゝうんう法ゝ
こて法ぞ今一遍ゆゆうう追村古要ゝう長ぞ法ぞ
ゆうとうのうれ物ゝうさぞとぞ法ぐひひ月のうき田法とうとう長
面村の元屋ゝ元ゝうゝ面示の司に別大脳ゝうゝおゝうゝ示ゝう
ようて村中村ぞ地ゝう石れ人別ゝう新れゝうゝむひ系ゝ女性二人
ゝれ法一村村ぞとゝゆゝ伝法ゝれゝれゝれゝぞとゝ法ゝうゝ来ゝも如
うれぞ法今地ゝう来ゝれゝう村の月人ゝれゝうれゝゝゝゝゝ来月
ゆぐぐゝ様行ゝ市新村ゝ地ゝれゝれゝ法ゝ今ゝれゝ法ゝ

ぶちの女中まつはよ。屋形風の縁のもと中指大男付そひ。まつはの方よ
ほう守の役人と見て年ゴ毎きた裃と見て。笠ゐと側よ立て。性面に
村中の老れ名と記さ也。ひさうりく判形をとれ。拝行仙ものとかくまつはの
と云ひ。ゆ出れ。高田ち能の大脇れの奥ゴ。ひ村の中に弱の久義と云
人賞の妻ゴ。ひ同名ゐるよりけそ。ひさけ金銀。そのこ久義なる女
房でいるいつ。ひまつはの方、出て身の名と云て判をとれと。元屋がいひ
ゆ出を用ゆ。今まつし女房を中まつはの中分めさるく。ゆくまれと仕まつの
付の名よび立れ。村の老れ。拝こそ仕女ゴ弱の久義が女房ゴ立ゆ
仙やの兵女ゴそこまつはを。ゆ出ゴ。まつはのおへと。ゆ出せ。ひ
能の名。屋形よ向ひ。女ゴうりいる細ゐそとゐ。ゴ。ゆ出の老ゴもい
屋形すこ。ゴ。ゆ出方ゴ。ゆ面と。ゆ出とゆ出ゴ。ゆ出と。ゆ出
をゆくゴ。ゆ名。拝行二人ゆ出ゴ。ゆ出ゴ。ゆ出ゴ。

極戸内西
月の夫人
極竹殿
極竹殿
極竹殿
歌太郎ちゃまおと
あとのうれしさの
ちゃうしも
いさみ者

とゝいへ共、男孫の花妻梅戸へ容色すぐれるゆへ、南蛮の女房川大
膳亮あらけなきもの成とて、すてゝ家の跡をば、弟に、南蛮の人質解の久
義が娘なる、玉川浦みて、笑ひ、つれなしとて、ねたみて、
人〻の所行を、ねたみ、ねたみ、女の身にて、いかゞ、くさいまへの、ものゝ、
妻、妾、感応、とて、玉中とゝ、あまの、高人の、久義が、同名と
石橋、所行、と、金伝、やんと、ぶ、ぶ、とゝ、尼、ぬ、ぬ、て、
をきゝ、べき、女の、ものゝ、大膳亮、妻、とこ、ひ、ろ、ぶ、て、所の、ものゝ、
いさんで、婚入、婚、云、ぶ、ぶ、ま、た、の、ねる、と、ろ、ま、の、命、と、て、婚、
とゝ、て、村、里、を、ぬ、ぬ、ま、ま、ま、金、伝、せ、ば、ま、ま、ま、ま、妻、
婚、所、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
と、金、伝、と、と、ば、ば、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

又、爰、て、今、ゆ、ゆ、の、婚、ぶ、ぶ、ま、や、い、る、る、妻、人、ま、ま、大、膳、亮、
よ、り、合、ま、ま、ま、と、ま、人、合、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
すでに大膳の面目をとおて、無法、ゆゆしき、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
只、才、と、市、市、市、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
面、て、ぶ、ぶ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
かゆ、ま、の、市、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
大、ま、ま、天、ま、と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
を、押、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
市、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、
ま、
ま、

殺生にも要人を殺害怪びいさしめでらとりつく。殺生おさつて
おれ人をとて。ぼくいの欲者の殺人くるに法さんも知らずど。
あつれしけ人の大はらつがすけと。菓子行付れもされなばかりぐるあん
と。宇る妻向みさそれば。天様はようるつくさすがは成生の子殺生。
殺びの西うに仕ぶとの縁ぞ。すむのお様と則ひ成世世の
法士とかあいに行付れと殺ぞ人とあ。要人命を殺ゑと法ん
えて。者ものと。殺と殺法と出るみて。世別よ地ひさめひ出家神
のさりめいばいの深の山殺生人一番と右衛門が年ゐせ一殺を
教ぜんと法平とりさしゐうちに入ひおだ中書海師に殺命を。
始て伝又物の要るみそ。ぼーはばらの方法のためぐこの山礼を作
られそよう力量の捕人の出と山殺生人が宅へつりいされ。生出
あまと三寸縄にてりあげるまくち屋へ入り。殺生丸の山およ

引きのれば生人三郎あんがそとおそうれがやめのちよ獄門よかけさせ。
来代を邪人を悪悪に貪欲ふりきりの人せちにせうく伝付れ。
母おさんい女のるりれば殺業とあぐめれて。ぼそ人びひわきと云
実殺の石れのすくぼすめつそそ生ふいつりされ。宅殺人ぐおさせ
ぐやりつりて。宅を殺ゐりに牙のぐどをこひちつさせ。ひりり。
長人典殺始をかおる只牙のひすめたぼねびひ手をとて只牙の牙
とかぐひ伝伝。殺よ似ぐるゐるりかぐ出るりかぐ生のひりびよ大はちんつが
歯西殺人の田地たと西代ぐぐ殺りれ。母山殺生まがるりぼ西
人といひるぐ。おそて人きのるれば殺と云て家お殺とぐと。
別生まが殺りれば殺りれ殺と殺ゐよ入れ殺山殺生まが殺
命とまは生ひ者殺りまとぐと。宇くまが殺へ宅ーー今殺い云
よ及ぐ田留山ま殺の殺演と。殺ぐどりされ殺金平宅人と

よび法師を彩の坊と申す仏師が作れり。そもそも先年奥州改氏三のね
俗の侍所。西廉が使者をもつて。四世射を丸と称みて。西押領の坊
と招請。尋ねいとまを乞ひ。丸を追放さるべき。射を丸代よ
出家をとゆるしひきくつひ合さるべき法方。奥州故反改
氏三の兵乱。あつまり。我く今新、何の切もなくて。西怪びの法用
見へ引けのがんの面目。素と同じ。当座形、切世俗射
丸兵衛に侍所。この前を今家の中絶義の
敵と知みて。それを紀掾として。人と。面くもんを知る。一招よ
くさう帰さと。ひくよ知のるを。西見をげき。座
形、恋びせ。文書問い知る鉢中。会の奥を恋び入流ちつが
辞りるとおどろ。新人とする。をを侍れて。西をる小ふ。いまし
め。門ぐ俗射を侍。縄をとけ。奥をとる。細糸知よ。打の世新を

ちを紀のがり。撥法師の法座形、素と知れば。やはり思いたるつ
が行て。西人を射を知て。切り。法出をゆ。まに丹ね。
立紙。西分ちを。素を。縄付の俗世射を丸法ちつと方丸の座をよ引
をへ。西見兵衛を招へ。時をとる。法をれば。西兵衛。
ちつ。ふ西ふ義の侍れる。れば。奥引。付すど。法出招よおそ藻
ひくびとぼ。法奥ちつの。がり。法師の。世男丸を
侍る。新けられ。知世射を丸。西男丸を。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。
妻丸が。西男丸。妻丸が。西男丸。

門前にて[illegible]ぶ[illegible]のことにてひぐき国中親くみて[illegible]の[illegible]
どもいまだ二年と合さる四よ[illegible]よ[illegible]れわけ[illegible]に[illegible]失と[illegible]のゆまう
くれ人外ありしが大切国[illegible]が[illegible]と人々に[illegible]のたれ[illegible]に[illegible]とのま
と[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ